

横浜市立斎藤分小学校 学校評価報告書

| 重点取組分野 | 令和 5 年度 | | 総括 |
|----------------|---|--|----|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | |
| 授業改善 | ①学習マークやデジタルタイマー、ミニ黒板などを活用し、ユニバーサルデザインの授業を行い、どの子どもも基礎・基本をしっかり定着できるようにする。タブレットなどのICT機器を活用して個別最適な学び・協働的な学びを進める。②資質能力を高めるための指導と評価の一体化を図りながら授業づくり、改善を行っていく。③重点研究では、「主体的に学習に取り組める子どもの育成」を研究主題とし、本年度から国語を教職員全員で、研究し、授業に生かしていく。 | 全クラス同じ学習マークやデジタルタイマー、ミニ黒板などを活用し、ユニバーサルデザインの授業を行い、どの子どもも基礎・基本をしっかり定着できるようにした。また、タブレットなどのICT機器の活用をいろいろな学習で取り入れ進めた。個々の資質・能力を高めるための指導と評価の一体化を図りながら授業づくりをし、改善を行った。さらに重点研究では、「主体的に学習に取り組める子どもの育成」を研究主題とし、国語科において教職員全体で授業を見合い、授業の進め方を話し合い、研究を通し授業に生かすことができた。また他教科でも活かすことができた。 | B |
| 道徳教育 | ①学校や地域で、自ら進んで気持ちのよい挨拶ができるようにしていく。毎日積み重ねることによって思いやりの心を育み、自他を大切にしていこうとする態度を育て道徳的な判断力を養っていく。②年間を通した異学年交流を行い、ねらいを明確にした全校遠足など縦割り(ふれあいグループ)での活動を行うことにより実践意欲と態度などの道徳性を養っていく。 | 学校や地域で、自ら進んで気持ちのよい挨拶をすることを年間生活目標に掲げ、取組内容を各クラス・個人で毎月振り返りをした。さらにあいさつビンゴに取り組み、自他を大切にしていこうとする態度が育ち道徳的な判断力がついた。年間を通した異学年交流を行い、ねらいを明確にした全校遠足・丘リニック・英語村など縦割り(ふれあいグループ)での活動を行うことにより、他者を思いやり優しい声かけをしたりすることができるようになった。 | B |
| 健康教育 | ①体育朝会(ラジオ体操、リズムジャンプ、ペース走など)や体育集会(大縄跳び)を実施し、運動を習慣化するきっかけとする。②体育部や体育委員会から、外遊びに関する呼びかけを行うとともに、外遊びの習慣化を目的とした企画を提案し、実施していく(ミニスポーツ大会のような休み時間に行えるものなど)。③養護教諭による保健指導や衛生指導、栄養教諭による食育指導などを行い、心身ともに健やかな児童の育成を図る。④体育の安全面や技能面の職員研修を行い、指導者の安全への意識や授業力を高め、体育科学習で児童に還元していく。 | ①体育朝会や体育集会を年間10回以上行い、様々な運動を楽しいストーリーに沿って取り組んだ。来年度、体育朝会はもう少し運動に特化したことに取り組んでいきたい。②ミニリニックなど休み時間を活用して取り組んだ。しかし、1年を通して運動を習慣化できたとは言えない。③養護教諭による保健指導や衛生指導、給食中の栄養教諭による食育指導などを行い、心身ともに健やかな児童の育成に努めた。④体育の安全面や技能面の職員研修を行い、指導者の安全への意識や授業力を高め、体育科学習で児童に還元することができた。 | B |
| 外国語教育 | ①外国語活動・外国語科では、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するために学習と指導の充実を図る。さらに英語を通して、自己決定力・自己表現力の向上を目指す。②国際理解教室では日本との文化や習慣の違いを学び、異文化理解を推進する。③英語村では、AET・教師、異学年との交流を通し、様々な思いや考えをもった人々との関わりの中で多様性を尊重し、協働・共生の意識を育てていく。 | 外国語活動・外国語科の授業では、コミュニケーションを図る資質・能力を育成するために指導と評価の充実を図りながら、英語を通して、自己決定力・自己表現力の向上を目指し取組むことができた。また、国際理解教室では日本とフィリピンの文化や習慣などの違いを学び、異文化理解の推進を行った。さらに、英語村では6年生のこれまでの学習を発展させ発表の機会を設けながら、全校児童がAET・教師・英語サポーター・異学年等の様々な人との交流を通し多様性を尊重し、協働・共生の意識を育むことができた。 | A |
| いじめへの対応 | ①いじめは重大な人権侵害という認識を学校全体で共有し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努める。②いじめ防止対策委員会を毎月、開催するとともに、児童会の取組や子ども会議との関連を図った有機的な取組を行う。③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを中心として、外部機関とも連携を図り、様々な角度や視点からいじめ防止に向けた取組につなげていく。 | いじめは重大な人権侵害という認識を児童と教師で共有することやいじめ防止対策委員会を毎月定期的に開催した。また、教職員へのいじめ防止研修の実施や児童会の取組や子ども会議との関連を図り、いじめの早期発見、早期解決と未然防止に努めた。そして、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを中心として、外部機関とも連携を図りながら、様々な角度や視点からいじめ防止に向けた取組につなげた。 | A |
| 人材育成・組織運営(働き方) | ①キャリアステージにおける人材育成指標に応じた自主研修の推進や校外研修に参加しやすい環境を整える。また校内OJTやメンターチーム等の活動推進を通し、教職員一人ひとりの力量を高め、学び続ける教師を学校全体で育成していく。②風通しのよい組織をつくり、様々な課題に対して、協働的で機動力のあるチーム斎藤分小学校を構築していく。③ワークライフバランスを十分にとり、メリハリのある働き方ができるような意識を教職員全体が常にもつようにする。 | キャリアステージにおける人材育成指標に応じた自主研修の推進や校外研修に参加しやすい環境を整えることに努めた。また特に経験の少ない若手教員を対象に、校内OJTやメンターチーム等の活動推進を通し、教職員一人ひとりの力量を高め、学び続ける教師の姿勢を学校全体で目指した。さらに、会議や行事の削減を促進し、ICTを効果的に活用しながら風通しのよい組織をつくり、協働的で機動力のあるチーム斎藤分小学校を構築していくように年間を通して努めた。 | A |
| 特別支援教育 | ①一人ひとりの子どもの実態を把握し、少人数指導や特別支援教室の取り組みを活用し、それぞれの個に応じた指導を行う。特別支援教室の組織的運営を推進する。②保護者の考えや思いに耳を傾けながら、学校カウンセラーやスクールソーシャルワーカー、療育センターなどの関係機関と連携をし、支援の在り方を振り返り、改善するように努める。 | 一人ひとりの子どもの実態を丁寧に把握し、少人数指導や特別支援教室の取り組みを活用し、個の特性に応じたきめ細やかな指導ができるように努めた。特別支援教室の組織的運営についてはまだ課題が残る。また、登校が難しい児童の支援については、児童や保護者の考えや思いに耳を傾けながら、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、療育センター、横浜市教育支援センターなどの関係機関と連携し、より良い支援が行えるように努めた。 | B |
| 児童指導・児童支援 | ①職員会議や打ち合わせでの状況共有だけではなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用しながらケース会議などの場で子どもたちの状況を確認し、情報を共有するとともに、指導の方向性や外部機関との連携について協議するようになる。②斎藤分小学校スタンダードを基本に、どの教職員も同じスタンスで児童指導にあたるように共通理解をしていく。 | 毎月の職員会議での児童の様子を共有するだけではなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用しながらケース会議などの場で児童の状況を確認し、情報を学校全体で共有するとともに、指導の方向性や外部機関との連携について協議するようになった。斎藤分小学校スタンダード(学校のきまり)を基本に、どの教職員も同じスタンスで児童指導にあたるように共通理解を年間を通して進めた。 | A |

| | | | |
|-------------------------------|--|---|----------|
| <p>地域連携 学校運営協議会</p> | <p>①地域の人的・物的資源を活かした単元づくりや学校環境整備を行い、神奈川大学や地域ケアプラザなど地域の各機関と連携し、教育活動に可能な範囲で参加して頂く機会を年間を通して教育課程の中に設定していく。②保護者・地域住民・地域学校協働活動推進委員等と連携・協働しながら、地域に開かれ・支えられ・信頼される学校づくりを目指していく。そのために、授業参観やホームページ等に学校の取組について年間を通して紹介するなど積極的な情報発信を行っていく。</p> | <p>地域の人的・物的資源を活かした単元づくりや学校環境整備を行い、神奈川大学や地域ケアプラザなど地域の各機関と連携し、教育活動に可能な範囲で参加して頂く機会を年間を通して教育課程の中に設定し、確実に実施した。また、保護者・地域住民・地域学校協働活動推進委員等と連携・協働しながら、地域に開かれ・支えられ・信頼される学校づくりを目指し、ホームページ等に学校の取組について年間を通して紹介し、積極的な情報発信に取組んだ。</p> | <p>A</p> |
| <p>信頼される 学校づくり</p> | <p>①学校便り、懇談会や学校説明会、COCOOを用いて積極的な情報発信や安全な環境整備に努め、児童・保護者・地域にとって魅力ある学校づくりに、教職員一丸となって取り組む。②学校の実情に関してアカウンタビリティを十分に果たしていくように常に留意する。③職員や保護者による学校評価や児童アンケートを通し、教育活動が児童の育成や変容にどう表れたのか、また保護者がどう受け止めたのか分析し、それを基にアクションプランを作成し、よりよい教育活動の推進に繋げていく。</p> | <p>学校便り、懇談会や学校説明会や報告会、ホームページ等において積極的な情報発信に努め、児童・保護者・地域にとって魅力ある学校づくりに、教職員一丸となって取り組んだ。また、学校の教育活動やその成果についての説明責任を意識しながら取り組みを進めた。職員や保護者による学校評価や児童アンケートを通し、教育活動が児童の育成や変容にどう表れたのか、また保護者がどう受け止めたのかを分析し、それを基にアクションプランを作成し、よりよい教育活動の推進に繋げた。</p> | <p>B</p> |
| <p>ブロック内 評価後の 気付き</p> | <p>六角橋中学校ブロックで行っていた様々な取組も、コロナによる配慮事項もなくなり、予定されていた行事や年間活動を概ね行うことが出来た。小中合同授業研究会において、実際の授業を参観しながら「9年間で育成を目指す子ども像や資質・能力」について共通理解を深め、手立てについて協議を深めることができた意義は大きい。そのため年間を通し、各教科・領域における指導事項や内容の繋がりを意識しながら、カリキュラム・マネジメントを促進することができた。また、教務主任会では、行事の日程調整の他にも校内のイントラネット化や各授業におけるICTの使用方法について各校と意見交換を行った。今後もより充実した小中交流・連携を行えるように、各校と工夫しながら連携を推進していきたい。</p> | | |
| <p>学校関係者 評価</p> | <p>本校保護者及び学校地域共に、異学年交流(ふれあい活動)等を通じた子どもたちの育成に大きな関心を寄せており、またその充実が図られることの大きな柱の一つとして、本校が小規模校であることをその要因として挙げる傾向が顕著である。また、そうした保護者や学校地域の願いが達成されるよう、地域に根ざした学校運営を目指して欲しい等の意見を受けることが多く、保護者や児童からのアンケート(学校評価)からもそうした傾向を掴むことができる。学校運営協議会においても、そうした趣旨の意見が複数示されており、引き続き、それら要望を踏まえた学校運営の必要性を感じている。</p> | | |
| <p>中期取組 目標 振り返り</p> | <p>今年度は、新型コロナウイルス感染症による教育活動の自粛制限が完全に解かれ、年間を通じて本来の教育活動を実施することが叶った一年となった。昨年度に引き続き、「一人ひとりの子どもの心に配慮した学校づくり」を目指し、いじめの未然防止やICTを活用した教育活動の充実から、教職員の働き方改革に至るまで、概ね当初の目標は達成できたものと認識している。次年度も引き続き、二谷小学校との学校統合の問題はあるものの、小規模校であることのメリットを最大限に生かしつつ、個別最適な学びや協働的な学びの更なる充実を図っていければと考えている。</p> | | |